

2023年11月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは12月9日(土)で、テーマは「もっと知りたいカワウ」です。ぜひご参加ください。12月1日(金)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は12月3日(日)です。

## 11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道
- 観察日時／天気：2023年11月11日(土) 10:00～11:45 / くもり
- 参加人数：12名(一般8人、中学生以下4人)
- 市民スタッフ：6名(伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、**竹本周平**、**弘實さと子**、湯瀬一栄)
- 鳥博友の会スタッフ：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

「\*」は下見だけでみられたもの

【鳥類】キジ科：キジ／カモ科：マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ<sup>\*</sup>／ムクドリ科：ムクドリ／ツグミ科：ツグミ(声)／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ／家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：アキアカネ／バッタ目：オンブバッタ、ウスイロササキリ、タンボコオロギ／チョウ目：キタテハ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ(さなぎ)<sup>\*</sup>、キタキチョウ、モンシロチョウ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ／カマキリ目：ハラビロカマキリ(卵)／ハエ目：キンバエ／ハチ目：キボシトックリバチ(巢)

【コケ植物】ゼニゴケ、コスギゴケ、ギンゴケ、スギゴケの仲間、ネズミノオゴケ

【地衣類】ウメノキゴケ、キウメノキゴケ、レブラゴケの仲間、モジゴケの仲間、シロフチイボゴケ、コナイボゴケ、クロムカデゴケ、ツブダイダイゴケ、コカゲチイ、コフキメダルチイ

【草の花】キク科：セイヨウタンポポ、ブタナ、コセンダングサ、セイトカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ／カタバミ科：オッタチカタバミ／アカバナ科：ユウゲショウ／ヒガンバナ科：タマスダレ

【木の花】アオイ科：ムクゲ／ツバキ科：ツバキの仲間、サザンカの仲間／スイカズラ科：アベリアの仲間

【実】クスノキ科：シロダモ／アサ科：ムクノキ、エノキ／マメ科：ヤブマメ／バラ科：トキワサンザシ／ウリ科：カラスウリ／ブドウ科：ノブドウ／ヒノキ科：メタセコイア

# 11月の観察アルバム



今回のテーマは『コケ』と名のつく生きもの』でした。地衣類の中には和名に『コケ』とつくものが多くあり、当日はコケ植物を採集して、形態を比べながら観察会しました。



竹本 周平



弘貫 さと子

今月の案内人



①地衣類のウメノキゴケは大気汚染の指標にされ、空気がきれいな場所ほどよく見られます。



②黄色に見える部分は子器盤といい、胞子がつくられます（写真は地衣類のコナイボゴケ）。

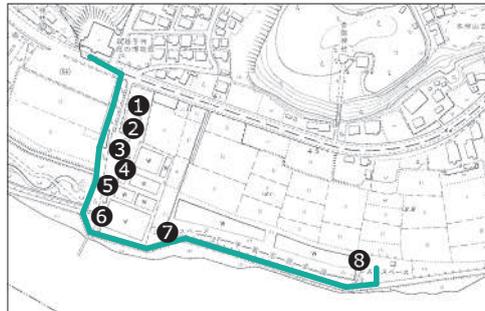


③幼虫が出た後のドロバチの巣

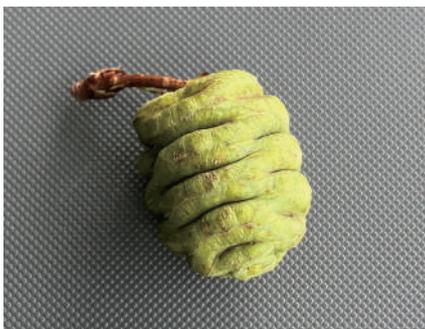


④コケ植物の杯状体（赤枠内）は無性芽をつくる器官（写真はゼニゴケ）。

## 歩いたルートと観察した生き物



⑤線状の模様が特徴的な地衣類のモジゴケの一種



⑥形が特徴的なメタセコイアの実。



⑦その名の通りネズミの尾のように見えるコケ植物のネズミノオゴケ。



⑧地衣類は樹木だけでなく、コンクリートなどの人工物でも見られます（写真はツブダイダイゴケ）。

## 今月の鳥 アオサギ（ペリカン目サギ科）

観察会の最中に杭にとまって休むアオサギを見つけました。長い首を縮めて嘴を胸の羽毛に差し込んで休んでいました。

アオサギは日本で見られるサギでは最も大きいもので、あしの長さと同じくらいに見えるほど長い首と大きなピンセットのような嘴で魚を捕まえます。骨格標本で首をみると、1つ頸椎がとてもし長いことが分かります。



手賀沼のヨシ原で休むアオサギ



アオサギの骨格標本（右は頸椎の拡大写真）